

2012 年度第 1 回日本語教育巡回研修会

2012 年 7 月 14 日（土）台北会場（公財）交流協会台北事務所

2012 年 7 月 15 日（日）台中会場 台中福華大飯店

別紙

学習者の「気づき」を生かした作文教育への提案

◆作文産出前	作文の内容や構成はメモなどでまとめさせる。ピア・レスポンスもよい。
◆作文産出中	内容の言語化には、誤用を恐れずに表出させる。
◆作文産出後	<p>自分の作文を読む(書き手から読み手に)</p> <p>作文の自己修正 気づき第1段階 ←「言えないこと」意識化</p> <p>↓</p> <p>自己修正に対する教師の添削+その他の誤用に対する教師の非明示的 フィードバック</p> <p>↓</p> <p>誤用提示箇所への修正 気づき第2段階 ←「目標言語との違い」 への気づき</p> <p>↓</p> <p>中間言語を活性化させ誤用を修正</p> <p>教師による明示的添削</p> <p>↓</p> <p>書き直し 気づき第3段階 ←添削による言語形式の気づき(インプット)</p> <p>↓</p> <p>中間言語の内在化または仮説修正</p> <p>作文の口頭発表 アウトプットを口頭で→口頭表現での正確さ向上</p>

石橋（2010, p18; 2012, p170 図は一部修正）

公益財団法人交流協会台北事務所主催